

学校番号	406
------	-----

令和3年度 芸術科(書道)

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	書 I (教育図書)						
副教材等	硬筆レッスン帳 (教育図書)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- ・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違い等を学びましょう。
- ・平仮名から入り、篆隷行草から楷書に至るまで様々な書体を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分らしい文字を書くことが出来るようになることをめざします。
- ・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観 点	a:書への関心・意欲・ 態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技 能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	観察 自己評価カード	観察 自己評価カード 提出作品	観察 自己評価カード 提出作品	観察 自己評価カード 提出作品
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。				
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4	書写と書道 (書体の変遷)	・国語科書写と芸術科書道 ・正式書体・略式書体 「天」の字を使った書体の変遷 ・さまざまな書体を使って書として表現された文字に興味を持つ	○			○	a:書写と書道の類似点・相違点、正式書体・略式書体について興味を持ち、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。 b:国語科書写での基礎・基本を踏まえ表現を工夫している。 c:姿勢や執筆法の基本を身に付け表現している。 d:書道の類似点・相違点、正式書体・略式書体について理解し、さまざまな書のよさを味わっている。	観察 自己評価カード 提出作品
5 6	仮名(ひらがな)から漢字かな交じりの書へ	・淡墨によるひらがな連綿 ・漢字仮名交じりの書(ひらがなの連綿と漢字による表現)	○	○			a:墨色について関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている。 b:一番省略された用筆法や単純化された平仮名の筆使いについて理解し、表現を工夫している。 c:平仮名の単純化された筆使いを身に付け表現している。 d:墨色は黒一色ではないことを理解し、そのよさを味わっている。	観察 自己評価カード 提出作品
6 7	漢字の書(五書体の学習から1文字作品制作へ)表具	・五書体の学習 ・正式書体と略式書体 ・漢字一文字作品制作 ・漢字一文字作品表具 ・相互鑑賞会	○	○		○	a:五書体(楷書・行書・草書・隷書・篆書)の美とその表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:各書体の基本的な用筆方法を理解し、表現を工夫している。 c:逆筆と順筆、筆の弾力を利用する用筆方法を身に付け表している。 d:文字の成り立ちに興味を持ち、代表的な五書体の古典を知り、そのよさや美しさを味わっている。	観察 自己評価カード 提出作品
8	漢字の書(硬筆)	・楷書と行書(夏期休業中の課題としても扱う。)		○		○	a:国語科書写の基礎的な能力を身に付け、その向上に努め、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとしている。 b:国語科書写で身に付けた基礎的な能力を生かして表現を工夫している。 c:国語科書写で身に付けた基礎的な技能を生かして表現している。 d:日常生活の硬筆の書の効用について理解し、そのよさを味わっている。	観察 提出作品

